

一年

二年

三年

聞く

- メモを取り、質問する
- だいたいだと思う言葉を中心にメモを取る。
- 相手の話の中で聞き取れなかったことや確認したいこと、詳しく知りたいことなどについて質問する。
- 「なぜ」「どんな」など詳しく知るための質問や、自分との共通点や相違点に関する質問など、さまざまな質問をする。

- 自分の考えと比べながら聞く
- 話題に対して相手は賛成・反対のどちらの立場か、相手の考えの根拠は何かに着目して聞く。
- 相手の考えのどんなところに納得できるか、また、どんなところに納得できないかを考える。
- 話を聞いたうえで、自分の考えの根拠や、自分とは異なる考えの根拠を改めて吟味し、自分の考えをまとめる。

- 話の内容や表現の仕方を評価する
- 根拠が正しいか。また、主張と根拠の結び付きが適切か。
- 主張が明確に伝わる分かりやすい構成になっているか。
- 分かりやすい具体例や印象的なエピソードを用いているか。
- 聞き手の興味をひいたり、説得力を高めたりするために、表現を工夫したり、資料を効果的に活用したりしているか。
- 抑揚や間の取り方など、話し方を工夫しているか。

話す

- 話の中心を明確にして、構成を考える
- 材料を整理し、伝えたいこと（話の中心）を明確にする。
- 聞き手に分かりやすく伝えるために、詳しい説明を加えたり、具体例を挙げたりする。
- それぞれの話のまとまりをどのように配列するかを考える。
- 話のまとまりの初めに、内容を示す語句を用いたり（ラベリング）、「まず」「次に」や「一つ目は」などの順序や数を表す語句を用いたり（ナンバリング）する。

- 説得力のある話の構成を考える
- 現在の状況や問題点の認識に誤りはないか、確かめる。
- 提案が問題を解決したり、改善したりするものになっているか、提案内容と提案理由との結び付きを吟味する。
- 聞き手に分かりやすく伝えるための説明の順序を考える。
- 説得力のある説明をするには、数値などの客観的な事実や具体例を示すことよ。
- 聞き手の質問を予想し、その答えを組み込むことも効果的である。

- 相手や目的に応じて、話の内容や構成を考える
- 聞き手の関心や話の目的に合わせて、話す内容を決める。
- どのような構成で話すか聞き手に分かりやすく、印象的に伝わるかを考える。
- 話題について、聞き手が知っていることと知らないことを想像し、説明を補ったり、具体例を示したりする。
- 聞き手にとって分かりにくい言葉（地名や人名、専門用語など）は、易しい言葉で説明できるようにしておく。

話し合う

- 聞き手の反応を見ながら話す
- 聞き手の方を見ながら、はっきりした発音と聞きやすい声の大ききで、ゆっくりと話す。
- 聞き手への問いかけを入れたり、話の区切りや強調したい言葉の前で間を取ったりするなど、話し方を工夫する。
- 聞き手の表情を見ながら話し、話が十分に伝わっていないと感じたときは言い換えたり、繰り返し述べたりする。

- 資料や機器を活用する
- 内容に応じて、キャッチコピーや図、表、グラフ、写真や映像などの適切な形式を選ぶ。
- もともとなる資料があるときは、出典を明記する。
- 資料のどこに注目すればよいかを指差しや言葉で伝える。
- 多くの人に伝えるときや広い会場で行うときは、プレゼンテーションソフトなどを活用するとよい。

- 相手の様子や場の状況に応じて話す
- 聞き手の表情や反応を見ながら話す。
- 内容が十分に伝わっていないと感じられたときには、分かりやすく言い換えたり補足したりする。
- 話の途中で聞き手に問いかけたり、質問を促したりする。
- ジェスチャーで表したり、資料を活用したりするなど、伝え方を工夫する。
- 聞き手に応じた適切な言葉遣いを意識し、間違った敬語やくだけすぎた言葉を使わないように気をつける。

話し合いて材料を出し合い、整理する

- 自分の体験を振り返ったり、話し合っていてほかの人の体験を聞いたりして材料を集める。
- 開放的な雰囲気を作る。話すときは率直に発言し、人の発言を聞くときは、最後まで聞いて、まずは受け止める。
- 考えを伝え合い、材料についての理解を深めながら共通点を見つけて分類する。

テーマを検討するためにメリット・デメリットを書き出す

- 多様な立場や意見を想定して、実施した場合に生じるメリットとデメリットをなるべく多く書き出す。
- それぞれのメリットとデメリットについて、「どうしてそうなるのか」「なぜ重要なのか」などの観点で掘り下げる。

多様な考えを想定する

- 同じ話題に対しても、知識や体験、立場などによって、さまざまな考えがあることを踏まえる。
- 別の立場から見たら、自分の提案はどのように受け取られるかを想像し、相手からの質問や反対意見を予想する。
- 異なる立場の相手にも、自分の提案のよさを分かってもらうには、どんなことを伝えたらよいかを考える。

話し合う

- お互いの発言を結び付けて、考えをまとめる
- 何について、どのような目的で話し合っているのか、今は話し合いのどの段階なのかを意識する。
- お互いの考えを理解するために、よく分からない点は質問したり、確認したりする。
- お互いの考えを比較したり、共通点に目を向けて関連づけたりする。

テーマについて検討し、結論を出す

- それぞれのメリット・デメリットを吟味する。
- デメリットについては、現状でも生じていないか、解消する手段がないかを考える。
- それぞれのメリット・デメリットが生じる可能性や、その影響の範囲と深刻度を考慮し、重要性を比較する。
- 意見が異なる場合は、質問したり反論したりしながら、お互いの意見への理解を深め、相手を尊重して話し合う。
- メリットを強めたりデメリットを弱めたりする条件を付けて、結論を出してもよい。

お互いの意見を生かして結論を出す

- 話し合いの目的を意識し、話し合うべきことを明確にする。
- 自分とは異なる意見であっても最後まで話を聞き、共通点がないかを考える。
- 分らない点については質問するなど、相手の意見を正しく理解するように心がける。
- 自分の意見にこだわりすぎず、相手の意見によいところや納得できるところがあれば、自分の意見を変える柔軟さを持つ。

一年

二年

三年

詩歌創作	伝達	論証・説得	通信・手紙
<p>表現を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○風景などを鮮やかに描き出すように、言葉を選ぶ。 ○同じ語句の反復を取り入れるなどして、リズムをよくする。 ○新鮮なものの見方を、比喩で表す。 	<p>テーマを設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○興味のある物事について、まず百科事典などで調べてみる。 ○調べて、おもしろいところや、もっと知りたいところを見つけ、「なぜ」「どんな」など問いの形でテーマを立てる。 ○自分の立てた問いに対して、答えの予想(仮説)を立ててみて、調べるべき問題点を明確にする。 ○複数の事柄を比較するテーマ設定も有効である。 <p>レポートの構成を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的には、次のような構成で書くことよい。 1 テーマ テーマと、それを選んだ理由を示す。 2 調査方法 どんな方法で調べたかを示す。 3 調査結果 調べて分かった事実を中心に書く。 4 考察 自分の考えをまとめる。 5 参考資料 参考にした資料の一覧を示す。 <p>○「調査結果」は、まとまりごとに分け、載せる順序を考える。</p>	<p>根拠を示す</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見を述べるときには、なぜそう考えるのかという根拠を明確に示すようにする。 ○意見と根拠の関係が分かりやすいかどうかを意識する。 ○根拠は、複数示したほうが説得力が増すことが多い。 <p>読んで確かめ合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすい文章構成で、根拠が明確に示されているか。 ○示されている根拠に説得力はあるか。 ○言葉遣いや句読点は適切か。誤字や脱字はないか。 	<p>掲載する情報を選択する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○伝える相手や目的を意識して、必要な情報を絞っていく。 ○文章の形式に応じ、季節の挨拶など、文章を彩る言葉を加える。
<p>表現を練りあげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鮮明な印象を与えるように、よりよい言葉を探す。 ○読者が想像を広げたくなるように書く。 ○倒置や体言止めといった表現技法を用いるのもよい。 <p>情報を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> ○できる限りさまざまな資料(本、パンフレット、新聞、雑誌など)に当たり、調べたいことに関する情報を見つける。 ○情報をメモするときには、その出典(題名、著者名、発行年月日など)も必ず記録する。 ○インターネットの情報には、匿名の記事などもあるため、本当に信頼できる情報かどうかに注意する。 ○人に会って話を聞くときには、疑問点や更に詳しく知りたいことを質問しながら、だいたいなことを落とさず聞き取る。 	<p>より効果的に伝わるように推敲する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読み手や目的を考えて、不要な情報は削除する。 ○順序を入れ替えたほうがよいところがないかを検討する。 ○興味をひく書きだし、言葉の選び方、臨場感のある描写、会話文の使用、文末表現の仕方など、表現を工夫する。 ○読み手の興味・関心をひく見出しを付ける。 	<p>根拠を吟味する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○根拠が確かな事実や事柄に基づいたものか、また、根拠から意見が適切に導かれているかについて考える。 ○個人的な経験や主観だけでなく、数値や資料など、客観的な事実を挙げるとよい。 ○反対の立場から簡単に反論されてしまわないかどうかを考える。 <p>分かりやすい構成で意見文をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意見文は、次のような構成で書くことよい。 1 自分の意見を述べる。 2 意見の根拠を挙げる。根拠が複数あるときには、「第一に」「第二に」という書き方(ナンバリング)を用いるとよい。 3 予想される反対意見とそれに対する反論についても、組み込めるとよい。 4 まとめる(改めて意見を述べる)。 	<p>手紙を推敲する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手紙の形式を守っているか。 ○伝える情報に漏れがないか。 ○言葉の使い方は適切か。失礼なところはないか。
<p>読み合って評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○五・七・五のリズムを生かしているか。 ○季語を一つ詠み込んでいるか。 ○情景や心情が伝わってくるか。 ○はっとさせられる新鮮な表現になっているか。 <p>情報の客観性や信頼性を吟味する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報の発信元は誰か。専門家や公的機関などから発信された情報は、比較的、信頼性が高いといえる。 ○裏付けの取れている情報か。適切な根拠を挙げて丁寧に説明されているかどうか留意する。 ○最新の情報か。発信された日付の古い情報だと、状況が変わっている可能性がある。日付の不明なものにも注意が必要である。 	<p>文章の種類と構成を考え、内容を膨らませて書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○伝える目的や内容に合った文章の種類と構成を考える。 ○ある材料をきっかけに、新たに知りたいことが出てきたら調べたり、関連する体験を思い出したりして、材料を増やす。 ○調べて分かったことを自分なりの表現でまとめ直す。または、資料の言葉をかぎ括弧で区切って引用する。資料をまる写しにして、それを自分の文章のように示すことは避ける。 ○体験を書くときには、そのときの状況を具体的に描写したり、会話文を取り入れたりするのもよい。 	<p>複数の対象を比較し、特徴を多面的に捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対象の特徴を一面的に捉えず、さまざまな観点から多面的に捉えるようにする。 ○複数の対象を比較することで、それぞれの違いが見えてきて、対象の特徴を多面的に捉えやすくなる。 ○複数の対象からよいものを選ぶときには、さまざまな観点から比較したうえで、特に大切だと思う観点を重視して判断する。 <p>説得力のある批評文を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の判断の根拠は、できるだけ具体的に示す。 ○対象のうち、最も優れていると思ったものだけでなく、他のものについても言及するとよい。 ○必要に応じて参考資料の一部を引用してもよい。引用する文章はかぎ括弧に入れて、出典(書名など)を明示する。 	<p>（この欄は空白です）</p>

◀ (次のページに続く)

描写・表現	感性・想像
<p>視点を決めて書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 誰の視点を通して語るかを決め、その人物を、例えば一人称の「私」など、どのようなよび方で登場させるかも考える。 ○ 語り手の視点から分かる範囲で人物の心情などを描き出す。 ○ 描きたい心情に合った言葉を選んで文章を練りあげる。 	<p>題材を見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活を振り返り、人に伝えたくなくなるような出来事なるべくたくさん挙げてみる。 ○ 「新たな発見をした」「今までの思い込みに気づかされた」「教訓を得た」など、自分の思いや考えが変化するきっかけとなった出来事を取り上げるとよい。 <p>工夫して随筆を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 読み手をひきつけるような書きだしを考える。 ○ どんな出来事があったのか、その出来事からどんな思いや考えを持ったのかということが明確に伝わるように書く。 ○ 出来事の場面では、人物の行動・態度や心情を丁寧に描写したり、会話を取り入れたりするとよい。 ○ 比喩や反復、倒置、体言止め、省略、対句などの表現技法を使うと効果的な場合もある。
<p>人物を描き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人物どうしのやりとりを会話文で表す。 ○ 人物がとった行動や、表情・しぐさなどを描写する。 ○ 人物が心の中で感じたことや考えたことを描写する。 ○ 情景描写に人物の心情を反映させる描き方もある。 	<p>豊かに描写する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人物の心情や、行動の理由などを直接説明するよりも、「何を感じているのかな。」「どうしてこんな行動をするのかな。」と読み手に想像させるように人物や場面の様子を描き出す。 ○ 形、色、明るさ、動き、音、肌触り、温度、匂い、味など、五感に訴えるような描写をする。会話文を入れたり、擬音語・擬態語を用いたり、比喩などの表現技法を使ったりするのもよい。 <p>感想交換の観点を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の流れ（筋立て）に無理がないか。 ○ 人物や情景の描写、会話文などを工夫して場面を描いているか。その工夫から、どのような表現の効果が感じられるか。 ○ もっと効果的に表現できそうなところはないか。
<p>書きたい内容を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の過去の体験や将来への望みを見つめ直して、思い浮かぶことを挙げる。 ○ 自分と相手（手紙の宛先）との関わりも意識して、伝えたいことを挙げる。 ○ 挙げたことの中から、自分の思いが伝わりやすい文章にすることを意識して、内容を絞る。 	<p>手紙の書きだしと結びを整える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 改まった手紙では、「拝啓」と書きだしてから、時候の挨拶として、今の季節らしさを感じさせる事柄について簡潔に書く。このとき、本文の最後は「敬具」と結ぶ。 ○ 親しい相手に宛てた場合などには、「前略」と書きだして、時候の挨拶などを省く書き方もある。結びは「草々」とする。

一年

二年

三年

「言葉の力」一覧 読む

一年

二年

三年

詩を鑑賞する

- 音読して、言葉の響きを感じ取る。
- 描き出されている風景や、詩に込められている思いを想像する。
- 比喩などの表現技法に着目する。

短歌を鑑賞する

- 短歌の形式を理解する。短歌は、五・七・五・七・七の三十一音を定型とする。
- 音読して、短歌のリズムを感じ取る。
- 句切れに注意して、音読や意味の理解に役立てる。
- 語句の意味や表現技法などに注意して、情景や心情を捉える。
- 読み取ったことから、想像を広げていく。

俳句を鑑賞する

- 俳句の形式を理解する。五・七・五の十七音を定型とし、季節感を表す言葉「季語」を詠み込むのが基本。これを「有季定型」という。
- 音読して、俳句のリズムを感じ取る。
- 季語について調べたいときには、季語を分類・整理した書物「歳時記」を使うとよい。
- 切れ、切れ字、取り合わせなどにも留意する。切れ字には、主なものに「や」「かな」「けり」がある。
- 季語のない無季の俳句や、定型によらない自由律の俳句もある。

言語感覚

人物や情景を描いた表現に注意する

- 登場人物がどんなことを感じたり考えたりしているのかを捉えるためには、登場人物の言葉や行動・態度などを描いた表現が手がかりになる。
- 場面の様子(情景)を描き出した表現にも着目するとよい。

登場人物の言葉や行動の意味を考える

- 登場人物の言葉から心情を捉えるときには、言葉の内容だけでなく、どんな言葉遣いをしているかという点にも着目するとよい。
- 行動や態度からは、言葉にならない思いが読み取れることもある。

作品を批評する

- あるものの特徴を捉えて、そのよさや価値について評価して論ずることを「批評」という。小説などの文学作品を批評するときには、次のような点に留意するとよい。
- 登場人物の人物や考え方、人物どうしの関係、場面の展開、象徴的な表現などを捉え、それらの意味や効果を考える。
- 作品のどういうところに工夫や魅力を感じるか、作品について自分はどう評価するかなどを述べる。

文学一

段落の役割や段落どうしの関係に着目する

- 段落の役割や段落どうしの関係に着目して、文章全体をいくつかのまとまりに分けると、文章の構成が捉えやすくなる。
- 文章全体における段落の役割の例
 - ▼話題提示
 - ▼問題提起
 - ▼例示
 - ▼結論
 - ▼主張 など
- 段落どうしの関係の例
 - ▼問いと答え
 - ▼原因と結果
 - ▼考えと根拠
 - ▼対比
 - ▼詳しい説明とまとめ
 - ▼中心となる説明と補足 など
- 段落どうしの関係を捉えるときには、接続する語句や指示する語句(こそあど言葉)が手がかりになる。

文章と図表などを結び付けて理解する

- 次のような点に気をつけて、文章と図表を結び付けて読むと、文章の内容が理解しやすくなる。
- 図表が文章のどの部分と結び付いているかを読み取る。
- 図表にはどのような役割があるかを考える。
- ▼文章の内容を視覚的に示す。
- ▼文章では表せない情報を補う。
- ▼複雑な情報を整理して示す。 など

説得力を高めるための論の進め方に着目する

- 何らかの主張を述べた文章を読むときには、次のような、説得力を高めるための論の進め方に着目するとよい。
- 主張を支える根拠は、具体例を示すなどして詳しく述べる。
- あえて異なる立場の主張を取り上げ、それに反論する。

構成・展開

事実と考えとの関係を捉える

- 事実と考えを区別する。
- ▼事実とは、確かなこと、例えば、実際に起こった出来事、信頼できるデータ、科学的に証明された事柄などである。
- ▼考えとは、まだ確かでないこと(推測)や、人によって賛成・反対が分かれること(意見)である。
- ▼文末表現が手がかりになることもある。
- どんな事実を根拠として考えを述べているかに着目する。

読み比べて考えを深める

- 複数の文章を読み比べるときには、次の点に注意する。
- 共通点や相違点に注意して、それぞれの主張を捉える。
- それぞれの文章で、考えの根拠が正しいか、また、その根拠から考え(結論)が適切に導かれているかを吟味する。
- 自分の知識や体験とも結び付けて、自分の考えを深める。

文章を読んだり、議論をしたりして、考えを深める

- 考えを深めるときには、次のことに注意しよう。
- 論点を整理し、何から考えるべきかを決める。
- 前提となっていることを疑ってみる。
- 具体例は抽象化して言い換えたり、抽象的なことは具体例を用いて説明したりしてみる。
- 自分の考えにこだわらず、異なる立場からも検討してみる。

吟味・判断

伏線に着目する

- 作品中にさりげなく描かれている事柄が、後で出てくる事柄と関連し合っ、意味や効果を生み出すようなとき、前のほうに書いてある表現のことを「伏線」という。
- 伏線に着目することで、作品の読みをより豊かなものにしていくことができる。

人物像に着目する

- 登場人物の言葉や行動・態度などがどのように描かれているかに着目すると、その人物の人物や考え方などの特徴、つまり人物像を捉えることができる。
- 人物の描かれ方にどのような意味があるのかを考えると、作品を深く読み味わうことができる。

人間関係の変化に着目する

- 作品中に主要な人物が何人か登場する場合、それぞれの人物には異なった特徴が設定されていることが多い。
- 立場や考え方の異なる人物が登場し、さまざまな出来事が起こること、人間関係が新たに生まれたり変化したりしながら場面は展開していく。
- 人間関係の変化を捉え、その背景や理由を考えることは、作品を読み深めるうえで大切である。

言葉とメディア

情報を見極める

- 情報を見極めるには、次のことに注意する。
- ニュースなどの情報は編集されたものであり、映像や写真も事実の一部を切り取ったものである。
- 発信者が専門家であるか、また公平な立場であるか。
- 同じ話題について、異なる考え方を伝える情報はないか。

事実と言葉の関係を意識する

- 同じ事実を、印象の異なるさまざまな表現の仕方を書き換えることができる。
- 文の順序や用いる語句によって、読み手に与える印象が違ってくる。

情報をより深く捉える

- 伝わってくる情報の背後にある、発信者の意図や願い、行動を、想像したり考えたりする。
- メディアの種類や発信者の立場によって、伝える情報の選択の仕方や、情報の伝え方・伝わり方に違いが出ることを意識する。

一年

二年

三年

論理的な言葉の力		
整理する力	分析する力	議論する力
<p>分類する・比較する</p> <p>分類する</p> <ul style="list-style-type: none"> 共通点に着目して、グループ分けしよう。 <p>比較する</p> <ul style="list-style-type: none"> 比較の観点は一つではない。さまざまな比較の観点を考えてみよう。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>読 才オカミを見る目</p> <p>書 調べて分かったことを伝えよう</p> <p>読 私のタンポポ研究</p> <p>話 話し合いて理解を深めよう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことを分類する どちらを選ぶか比較して決める 	<p>事実と考えを区別する</p> <p>事実と考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 事実は確かなこと。だけど、考えは人によって違うかもしれない。 <p>推測と意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 推測なら、もっと調べよう。意見なら、もっと話し合おう。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>読 私のタンポポ研究</p> <p>書 根拠を明確にして書こう</p> <p>話 中心を明確にして話そう</p> <p>読 ニュースの見方を考えよう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ニュース番組のコメントを聞く 事実と考えを区別して話し合う 	<p>根拠を挙げて考えを述べる</p> <p>独断と水かけ論</p> <p>根拠を述べる</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを述べるときには、どうしてそう考えるのかを説明しよう。 <p>見せかけの根拠</p> <p>〈学習のつながり〉</p> <p>書 調べて分かったことを伝えよう</p> <p>読 私のタンポポ研究</p> <p>話 根拠を明確にして書こう</p> <p>中心を明確にして話そう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 根拠に着目して主張を読む 根拠を挙げて話し合う
<p>情報を図や表に整理する</p> <p>囲みや矢印を使って情報を整理する</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を取り出して、同じグループを囲んだり、関係を矢印で表したりして整理しよう。 <p>表を使って情報を整理する</p> <ul style="list-style-type: none"> 複雑な情報は、適切な項目を立てたうえで、表を使ってまとめよう。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>読 ハトはなぜ首を振って歩くのか</p> <p>書 根拠を吟味して書こう</p> <p>話 説得力のある提案をしよう</p> <p>話 話し合いて問題を検討しよう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことを整理する プレゼンテーションの資料を作る 	<p>論証の説得力を見極める</p> <p>論証の組み立て</p> <ul style="list-style-type: none"> まず結論と根拠を見つけよう。 <p>論証の説得力</p> <ul style="list-style-type: none"> 根拠は正しいだろうか。 その根拠から本当にその結論が導けるだろうか。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>話 考えを比べながら聞こう</p> <p>読 黄金の扇風機／サハラ砂漠の茶会</p> <p>書 根拠を吟味して書こう</p> <p>話 説得力のある提案をしよう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の人の考えを吟味する 自分の考えに説得力を持たせる 	<p>質問する・反論する</p> <p>質問する</p> <ul style="list-style-type: none"> 意味が理解できない↓どういう意味かを尋ねよう。 考えに納得できない↓そう考える根拠を尋ねよう。 <p>反論する</p> <ul style="list-style-type: none"> 根拠と結論の間の飛躍を埋めてもらおう。 論証に対する反論↓根拠が正しくないと反論する。 根拠から結論が適切に導かれていないと反論する。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>読 黄金の扇風機／サハラ砂漠の茶会</p> <p>書 根拠を吟味して書こう</p> <p>話 説得力のある提案をしよう</p> <p>話 話し合いて問題を検討しよう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 話を聞いて質問する 質問するつもりで読む 適切に反論して、議論を進める
<p>多面的に捉える</p> <p>一面的と多面的</p> <ul style="list-style-type: none"> 一面的に捉えて決めつけてしまわないで、多面的に捉えるようにしよう。 <p>多面的に捉えられるようになるために話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分と違う意見から、新たな考え方やもの見方を学ぼうとする姿勢を持とう。 <p>比較する</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい観点を見つけるために、他のものと比較してみよう。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>話 評価しながら聞こう</p> <p>書 幸福について</p> <p>書 観察・分析して論じよう</p> <p>話 話し合いて意見をまとめよう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合っていて、違う見方を知る 比較して、理解を深める 	<p>論理的に読む</p> <p>問いと答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 「問い」と「答え」を考えながら読もう。 <p>根拠の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 根拠の関係を見つけよう。 <p>解説の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 解説の関係を見つけよう。 <p>反対の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 反対の関係を見つけよう <p>〈学習のつながり〉</p> <p>話 評価しながら聞こう</p> <p>読 絶滅の意味</p> <p>読 幸福について</p> <p>書 観察・分析して論じよう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞の社説や投書を読む スピーチや演説を聞く 言いたいことが伝わるように書く 	<p>合意を形成する</p> <p>共通点を探す</p> <ul style="list-style-type: none"> 第三者の視点に立って、共通点を探してみよう。 <p>相手のよいところを見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見にこだわりすぎず、相手の意見のよいところを見つけよう。 <p>互いに合意できる案を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いの意見のよいところを取り入れた案を考えよう <p>〈学習のつながり〉</p> <p>読 幸福について</p> <p>書 観察・分析して論じよう</p> <p>話 話し合いて意見をまとめよう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる立場の主張を読む お互いが納得できる結論を探す

対話的な言葉の力		文学的な言葉の力							
伝え合う力		表現する力	解釈する力						
<p>相手の話を受け止め、引き出す</p> <p>相手の話を受け止める</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話題と意思を押さえて、相手の話をしっかりと受け止めよう。 ○質問で相手の話を引き出す ○話の中心に関わる質問と関わらない質問、開かれた質問と閉じられた質問を使い分けよう。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>詩の心——発見の喜び</p> <p>話話を聞いて質問しよう</p> <p>話話し合いて理解を深めよう</p> <p>書心に残る出来事を表現しよう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで感じたことや考えたことを話し合う ・スピーチを聞いて質問をする 		<p>描写や表現技法を用いる</p> <p>具体的に描き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ○具体的な描写を取り入れて表現しよう。 ○表現技法を使う ○さまざまな表現技法を使ってみよう。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>詩の心——発見の喜び</p> <p>書小さな発見を詩にしよう</p> <p>読少年の日の思い出</p> <p>書心に残る出来事を表現しよう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験を伝える ・ポスターのキャッチコピーを作る ・詩や小説を読む 	<p>文脈を捉え、伏線に気づく</p> <p>文脈を捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表現どうしの関連に注意して、文脈を捉えよう。 ○伏線に気づくと、文章を豊かに読み解ける。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>飛べ かもめ</p> <p>読さんちき</p> <p>話話を聞いて質問しよう</p> <p>書少年の日の思い出</p> <p>書心に残る出来事を表現しよう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小説を読み解く ・話を聞く ・随筆や物語を書く 	<p>人物像を捉える</p> <p>人物の言葉や行動・態度に着目する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人物の言葉や行動・態度に着目して、人物像を捉えよう。 ○人物像の多面性に気づく ○同じ人物でも、さまざまな側面があり、人物像の多面性が見えてくることもある。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>字のない葉書</p> <p>読辞書に描かれたもの</p> <p>読走れメロス</p> <p>書いきいきと描き出そう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小説や随筆、伝記などを読んで人物像を捉える ・人物の特徴が伝わるように書く ・自分の個性を多面的な角度から見つめ直す 	<p>想像を誘うように表現する</p> <p>情報を伏せることで想像を誘う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報を伏せることで想像の余地を生み出そう。 ○状況を徐々に描き出す ○状況が徐々に見えてくるように描写しよう。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>短歌のリズムで表現しよう</p> <p>書説得力のある提案をしよう</p> <p>読走れメロス</p> <p>書いきいきと描き出そう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションをする ・物語や随筆を書く ・文学作品を読み味わう 	<p>人物どうしとの関係に着目する</p> <p>それぞれの人物の特徴を捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人物どうしの言葉や行動・態度を対比しながら、それぞれの人物像を捉えよう。 ○人間関係の変化に着目して読み深める ○人物を描いた表現や、人物を取り巻く環境に注意して、人間関係の変化を捉えよう。 ○象徴となる物にも着目し、その意味を考えよう。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>形</p> <p>読百科事典少女</p> <p>読評価しながら聞こう</p> <p>話故郷</p> <p>書今の思いをまとめよう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の変化に注意して小説を読み深める ・会話しながら人間関係を捉える ・随筆や小説を書く 	<p>相手の立場を踏まえ、考えを深める</p> <p>相手の考えを理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手の立場に立って想像し、話を丁寧に受け止めよう。 ○考えを深める ○多様な考えに触れて、自分の考えを深めたり、新たな発想を生み出したりしよう。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>辞書に描かれたもの</p> <p>読考えを比べながら聞こう</p> <p>話話し合いて問題を検討しよう</p> <p>書いきいきと描き出そう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場を踏まえて話し合う ・文章中の登場人物の立場に立って想像しながら読む 	<p>素材を生かして表現する</p> <p>素材となる体験や知識を組み合わせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○関連する体験や知識を探して組み合わせよう。 ○調べた知識を生かすには ○調べた知識は、適切に「言い換える」か、そのまま「引用する」ことで生かそう。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>二つのアザミ</p> <p>書編集して伝えよう</p> <p>書観察・分析して論じよう</p> <p>話場面に応じて話そう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチをする ・随筆や批評文を書く ・文章を読み味わう 	<p>相手や目的に応じて伝える</p> <p>適切な話題を選択する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手や目的を把握して、適切な話題を選択しよう。 ○説明内容を分かりやすくする ○相手や目的に合わせて、内容を整理したり、言葉や表現を工夫したりしよう。 <p>〈学習のつながり〉</p> <p>編集して伝えよう</p> <p>書場面に応じて話そう</p> <p>話いつものように新聞が届いた</p> <p>読——メディアと東日本大震災</p> <p>書今の思いをまとめよう</p> <p>〈生活への広がり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを新聞にまとめる ・面接の場で自己紹介をする

一年

二年

三年